

「助け合おうぜい」

田島 由菜

中学生の私は自分の好きなものをお小遣いで買っている。百円の物をレジに持っていくと百十円になっている。限りある自分のお金を少しでも有効に使って、沢山の物を買いたい。だが、商品の値段の十%分も値段が高くなってしまうのは正直嬉しくないことだ。これが消費税なのか…と思ってしまっていた。

そんな中、数ヶ月前、叔父の家族がコロナウイルスに感染してしまった際に、自宅に東京都から沢山の食べ物や飲み物が送られてきたという話を聞いた。これらは税金で支給されているのを知った。そのおかげで家から出られない生活の中でも、しっかりと食べたり飲んだり出来て楽だったというのを聞き、安心した。

これが税金のありがたさを身近に感じるきっかけになった。税金は、コロナ禍や今の社会状況で困っている多くの人へ、払っている全ての人からの支えになっている。そう考えると、税金は良いものなのかなと思うようになった。今まで、税金が社会のどんなところに使われているのかをよく考えたり調べたりしたことが無かったが、困っている人の助けに繋がっているのを間近で知ることが出来た。

これを機に税金について調べてみると、道路や上下水道・公園など生活に欠かせないもの。また教育や警察・医療・介護等の公共サービスのために使われていて、自分自身も生活のあらゆる面で税金に支えられているのがわかった。もしも、これらに税金が使われていなければ、日本の今のような豊かな生活にはなっていなかったのかもしれない。また、叔父の家族も、感染してしまった生活にさらに苦勞していただろう。今の社会情勢の中でコロナワクチンやウクライナ支援、SDGs活動にも税金が使われている。私達、国民からの税金が支援となり、国を越えた助けへ繋がっているというのは、凄いことだと思う。

税金や消費税は、自分個人にとっては出費になってしまうが、それ以上に社会や世界にとって、沢山の人の応援や無くてはならないものになっているのを実感した。日常の中で、直接的には税金の効果を感じにくいのが、大勢の国民からの税金を通して、暮らしが豊かになっていたり困った時の助けになったりしている。その「助け合いの輪」は、毎日の暮らしの中にも広がっている。だからこそ今の生活の基盤が出来ている。これは、顔も場所もわからない、見ず知らずの人同士の助け合いのひとつだと考える。

『税で社会の中での助け合いが出来る。』

私は小さなきっかけから税金について深く考え、税金の意味や必要性を理解できてから消費税を払うことが以前ほど嫌ではなくなった。私のように税の大切さや支えを知り、考え方が少しでも変わる人が増えていき、これからもその税金が社会へ有効に使われていくと良いと思う。